

# 19年度完成めどに

## 長木ダムの本格的建設調査はじまる

長木川は、毎年白鳥が飛来する美しい川として、また、渓谷や公園など、市民のくつろぎの場のある川として親しまれてきました。しかし、昔から洪水や濁水に悩まされた川でもありました。美しい風景や市民のくつろぎの場はそのままに、今後は流量の一定化を図っていかなければなりません。このため、長木川上流部（雪沢地区）に長木ダムを建設する計画が県により進められています。

### なぜダムが 必要なの

長木川は傾斜が急な溪流であり、古くから洪水などの被害を受けてきました。このため、昭和十年から長木川中小河川改修事業、同二十六年からは災害復旧助成事業などの治水事業が行われ、安全性の向上が図られてきました。

しかしながら、「災害は忘れたころにやってくる」と言われているように、昭和四十七年七月の梅雨前線被害、同六十二年八月の集中豪雨被害、さらには平成五年二月の融雪被害など、洪水の被害は後を絶ちません。

また、長木川沿い一体には約七百ヘクタールの水田があり、かん

がい用水資源として利用されています。しかし、近年だけでも昭和五十三年、五十七年、平成元年、六年と渇水に見舞われるなど、夏季の水不足も深刻化しています。

近年、市街地への人口集中により、その周辺部にも住宅地の開発や下水道の整備が進展しつつあります。そうしたことから上水道が未普及の地域にも安全で安定した上水道の供給が必要となってきました。今後、水道用水の需要の急増が予想されますので、新たな水源の確保を急がなければなりません。このような洪水被害の軽減、既得かんがい用水に対する補給、景観維持、魚類の生息などのための流量の確保及び上水道の安定供給のためには、長木ダムの建設は、まさに決め手といえるものです。

### いままでの

### 経緯は

〔平成元年〕  
かんがい用水の補給や上水道用水の確保を目的とした多目的ダムの予備調査に着手する。

〔平成2年〕  
建設促進に向けて、長木ダム建設促進期成同盟会が設立される。

〔平成3年〕  
国のダム補助事業として新規採択。調査費平成3年度4千万円、

4年度、5年度各6千万円、6年度、7年度各1億円が予算措置される。

〔平成8年〕  
建設が採択される。

県の地方機関として長木ダム建設事務所が設置される。調査費として一億円が予算措置される。

※また、その間長木ダム工事促進期成同盟会が建設省、大蔵省などへ毎年、陳情活動を行っています。

